



▲法要の様子

忘れることのできない震災から20年 阪神・淡路大震災物故者総追悼法要 1.17「いのち」を考える研修会

く別院だよりく

モダン寺新聞

第42号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒6500011
神戸市中央区下山手通八丁目一番一号
TEL 078-3415949

平成二十七（二〇一五）年一月十七日、阪神・淡路大震災から二十年が経過したこの日、本願寺神戸別院本堂において、「阪神・淡路大震災物故者総追悼法要」が勤修されました。

阪神・淡路大震災では、兵庫県を中心として多くの方が被災し、六千四百三十四名の方が亡くなられました。二十年という月日が過ぎ、街並みは綺麗に復興したように見えますが、被災者の心に残った傷跡はなかなか癒えることはありません。

法要後は、「いのち」を考える研修会が開催されました。それに先立ち、本願寺派宗門校の生徒の方々四名に、作文を朗読していただきました。（以下要旨）

神戸国際中学校

北野真子さん

「震災と命」

「もし、自分が震災にあったら」、なんて考えたことはありませんでした。でも防災未来センターを訪ねたことで感じ方が変わりました。

どうしたら、災害による被害が少なくなるのかを学び、救助には公助、共助、自助があることを知りま

した。公助とは政府によって助けられる事です。共助とは、ご近所の人に助けられる事です。中でも一番大切なのは自助で、自分の命を自分で守る事です。その理由は、避難した百人中、六十三人は自助だったという結果があるからです。災害が起きた時には、必ず自助して生き残ることを優先する事、その上で、災害の恐ろしさを後々の人に伝えていく事が重要だと思いました。

神戸龍谷中学校

川島夏帆さん

「震災から思うこと」

私は、阪神淡路大震災を知りません。私が生まれる六年前の出来事です。復興までに時間がかかったのですが、今の神戸の町をみて、とてもきれいだなと思います。神戸の人たちが前向きになったからきれいになったと考えると人の力はすごいなと思います。

そして三年半前に東日本大震災がありました。津波が町を飲み込んでいく映像はとても衝撃的で、津波がこんなに力のあるものだということを知りました。毎日、普通に通って過ごしていた生活、毎日見てい

た景色が一瞬で失われてしまったことを聞くと、何でも当たり前にあると思っただけなのに、物事を大事にして人を大事にして過ごしていかなくてはいけないし、日常生活の毎日を一日一日感謝して生きていきたいです。

須磨ノ浦高等学校 古村芳野さん

「いのち」

生まれてくる時、命はさまざまな生まれ方をします。健康で元気に泣く命、病気をかかえて弱々しく泣く命、障害を負い医療に支えられる命などもあります。どんな命も大切な命です。亡くなっている命などどこにもありません。

しかし、悲しいことに、悩みを抱え、辛くなって、自ら死を選択する人もいます。辛くても生き抜いている命もあれば、生も死もほとんど意識することなく、楽しく生きている命もあります。そして、どんな命も必ず死をむかえます。

「いのち」の三文字に込められた時間を、どのように過ごすのかも一度考えてみると、今ある命を大切にすることが出来ます。そしてその

命を支えてくれている周りの命も大切にすることができると思います。

神戸龍谷高等学校 高橋采絹さん

「生かし合う」

東日本大震災が起きたとき、私は小学六年生でした。私と同じようにすぐ近くに卒業式を控えていた小学生が、どれほど犠牲になったのだろう。突然夢を奪われた人が、突然家族を失った人が、一体どれほどの悲しみに暮れるのだろう。考え出すとキリはなく、ただただ胸が寒くなるだけでした。

人によって価値や見方が変わるのには当然のことです。ほんの些細なすれ違いが、致命傷になる場合も少なくはない。そこで大事なことは、やはり相手を尊重し、大切にすることだと思っています。相手の「いのち」を大切にしていれば、きっと関係は保てると、私はそう信じています。「いのち」とは何か。私なりに探した答えは、「生かし合うもの」だということです。人間誰だって一人で生きるには限界があつて、足りない部分を補い合える人と一緒にいるのだと思います。

「いのち」を考える研修会 「今、生き死にを考える」

勝谷誠彦氏 講演

どうも今日はようこそ。今日は一月十七日という神戸にとつては大切な日にお話しさせていただくということで、非常な責任の重さを感じるとともに、心が震えてたまりません。亡くなられた方、被災者の皆様に心から哀悼とお見舞いを申しあげます。

災害備蓄品試食会

「いのち」を考える研修会の後、災害に備えた非常食の試食会が行われました。

美味しい食事は心身の疲労を癒す効果があります。災害などが起こったときには、特に疲れることが多く、なおさら効果が見込まれます。

いつ起こるか分からないのが災害ですから、万全に備えておくことが重要です。



▲カレーが一番好評でした

さて、私が一番好きな言葉は、ソクラテスの「ただ生きるな、よく生きる」という言葉です。これが非常に大切だと思います。犬猫のようにただただ生きるのではなく、死を恐れずによく生きる。ではよく生きるとは何か。よく生きるとは、死を覚悟しながら、意識しながら生きることです。死を考えることで、生きることの価値が出てくるのだと思います。当然、自分から死を選ぶことはほとんどないことです。

(三面に続く)



▲熱弁する勝谷氏

は物凄い過程があるわけで、むやみやたらに腹を切っているわけではありません。腹を切るほどの覚悟で毎日を生きているということが日本人の凄さだったのです。

昔は、生きることそのものが難しかったのです。だから、毎日必死で生きていました。だから生と死は裏表で、子ども達はいつも死についても考えていました。皆様の世代でしたら、お父さんやお母さん、あるいはおじいちゃん、おばあちゃんを家で送ったという記憶があるでしょう。それが死を濃厚に感じさせる。私は家での看取りも見直していくべきではないかと思えます。そうした体験によって、死ぬときは死ぬのだなど、死を迎えるときには、それを受け入れる態勢ができるのだと思えます。死を知らずして生を語るのとはなかなかに難しいことだと思います。

今日は一月十七日という日に私としては極めて真面目な話を(笑い)一生懸命お話しさせていただきました。自分でもこのようなお話ができるんだということを再発見致しました。皆様本日はどうもありがとうございました。

(講演より記者)

報恩講勸修

親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ

去る平成二十六年(二〇一四年)十一月二十六日から二十八日まで、当別院の報恩講が勤修されました。報恩講とは、親鸞聖人が今日まで続くお念仏の道、浄土真宗をお伝え下さったお徳をたたえ、ご恩に報いる法要です。京都のご本山本願寺では、親鸞聖人のご命日である一月十六日にあわせて御正忌報恩講が勤まりますが、一般の寺院では、「お取り越し」といい、本山の法要に参拝できるように先駆けて行われることが通例となっています。

本願寺神戸別院では、この三日間、講師として後藤法龍師(熊本教区阿蘇組東照寺)をお招きし、九席にわたってご法話をいただきました。

自分の生活を見直す縁に

後藤先生は、ご法話の中で、「必要ときだけ、私は浄土真宗のご門徒であります、といったような顔をする。普段の生活は他のところと抱き合っている」と自分の気持ちに合ったときだけお念仏している私たちの今の姿をお示しになりました。そ

のうえで、「いつでも、どこでも、誰にでも、阿弥陀さまという仏さまは、私たちに向かつてはたらき尽くめの仏さまです。無量寿・無量光、十方の衆生を呼びかけてくださる仏さまです。だから私たちが阿弥陀さまのことを忘れておつても、時々必要になったときだけ阿弥陀さまに手を合わすような生活をしておつても、阿弥陀さまは一時も休むことなく、二十四時間、一分一秒も休むことなく」はたらき続けてくださるのと話されました。

ご法話を聞いて思うこと

思い返してみますと、日々忙しい中で、お念仏申す機会が減ってしまっている私たちであります。不安にかられたときだけ、法要のときだけの南無阿弥陀仏。そのような自分勝手な姿が見えて参ります。「それでも救うてやる」とはたらき続けてくださる阿弥陀さまの懐の深さには、ただただ頭が下がる思いです。そんな私たちだからこそ、法要や講座で仏法をお聞きし、いつの間にか阿弥陀さまから離れている自分の生活を、正していく日々を送らせていただきたいものでございます。(記者)

別院行事予定

三月

第一土曜仏教講座

七日(土)午後一時半より

◇講師 ◇あそかビハラー病院
ビハラー室長

花岡 尚樹 師

常例法座

十五日(日)・十六日(月)

◇講師 ◇朝来組西方寺
午後一時半より

藤井 雅峰 師

春季彼岸会

二十日(金)・二十一日(日)

◇講師 ◇滋賀教区栗太組円正寺
午後一時半より

本願寺神戸別院元輪番

井上 博雄 師

四月

第一土曜仏教講座

四日(土)午後一時半より

◇講師 ◇NPO法人京都自死・自殺
相談センター理事

野呂 靖氏

仏教婦人会定例法座

七日(火)午後一時半より

◇講師 ◇赤穂北組専稱寺

赤松 普宣 師

常例法座

十五日(水)・十六日(木)

◇講師 ◇高砂組善行寺
午後一時半より

網干 善一郎 師

本願寺神戸別院 納骨所のご案内

納骨所

本願寺神戸別院の納骨所は、建設以来、門信徒の要望などもあり増設を行ってまいりました。現在も募集させていただいておりますが、区画数に限りがありますので、早めのお申し込みをお待ちしております。詳しくは本願寺神戸別院まで。お越しいただければより詳しい説明をお聞きたいだけです。

※納骨所はこのような方にお勧めいたします。

- ご遺骨を現在、自宅等に安置されている方
- 天気を気にせず、お参りしやすいところをお探しの方
- 永代安心できるお墓をお求めの方
- 遠方のため、お参りやお掃除が行き届かずお困りの方

普通区画納骨壇

納骨所使用懇志 250万円以上
年次維持冥加金 1万円



5段型納骨壇 (小型区画)

納骨所使用懇志 70万円以上
年次維持冥加金 5千円



納骨永代経

●墓地をお持ちでも、後を受け継いでくれる方がいないなどの悩みをお持ちの方

●故人の命日に永く読経を望んでおられる方

右記のような方にも「納骨永代経」をお勧めいたしております。

※詳細につきましては、お気軽にお問い合わせください。



▲5階納骨壇

資料のご請求・ご相談は
TEL078-341-5949 (代)
本願寺神戸別院教化センターまで